

## 2025 年春の開館まであと 2 年！カウントダウンイベントのご案内

【第一弾】 3 月 5 日(日) 山田五郎氏スペシャルトークショー in 米子

【第二弾】 3 月 21 日(火祝) ロゴ・シンボルマーク発表&デザインフォーラム in 倉吉

概 要	<ul style="list-style-type: none"><li>鳥取県教育委員会と鳥取県立美術館パートナーズ株式会社は、県立美術館開館 2 年前の節目にあたり、2 本のカウントダウンイベントを開催します。</li><li>第一弾 ① は米子会場で、美術に造詣の深い編集者・評論家の山田五郎氏を迎え、<b>「これからの美術館が向かう未来」</b>と題し、美術館の楽しみやこれからの美術館が向かうべき方向についてお話を伺います。</li><li>第二弾 ② は倉吉会場で、昨年、デザイン案を公募した美術館の<b>ロゴ・シンボルマークの発表</b>を行います。また建築デザインから美術館のブランディング、コミュニティー・デザインといった幅広い分野の専門家の方々を招いて、<b>「美術館とデザインとの幸せな関係」</b>をテーマにシンポジウムを開きます。</li><li>両日ともに、鳥取県立美術館の建築・学芸・運営の担当者が、当館のコンセプトや開館準備状況についてもお話し、2 年後の開館に向けて、鳥取県立美術館の目指す姿を県民と共有する機会とします。</li></ul>
日 時	① 2023 年 3 月 5 日 (日) 13:30-16:30 ② 2023 年 3 月 21 日 (火祝) 11:00-11:40、13:00-15:30
場 所	① 米子市文化ホール イベントホール+ウエビナー (ズーム) ② 倉吉未来中心セミナールーム 3
プログラム 概要	<p>① <b>「OPENNESS!未来を“つくる”美術館 2025 年誕生に向けて」</b> [司会] 山下弥生 (やました・やよい   FM鳥取アナウンサー) <b>【Program 1】 鳥取県立美術館ってどんなところ？ (60 分)</b> 建築・学芸・運営担当者による座談会。会場からの質問にも答えます。 <b>【Program 2】 スペシャルトークセッション「これからの美術館が向かう未来」 (80 分)</b> [ゲスト] 山田五郎氏 (やまだ・ごろう   編集者・評論家) [聞き手] 尾崎信一郎 (おさき・しんいちろう   鳥取県教育委員会 美術館整備局美術振興監)</p> <p>② <b>「OPENNESS!未来をつくるデザインフォーラム」</b> [司会] 濱井丈栄 (はまい・ともえ   フリーアナウンサー) <b>【第一部】ロゴ・シンボルマーク審査結果発表&amp;授賞式 (40 分)</b> 最優秀賞、優秀賞、特別賞を発表。最優秀賞受賞者より、最終案のコンセプト説明を行います。 [挨拶] 足羽英樹 (あしば・ひでき   鳥取県教育長) [副賞授与] 栗原隆政氏 (くりはら・たかまさ   JA 鳥取中央代表理事組合長) <b>【第二部】スペシャルトーク「美術館とデザインとの幸せな関係」 (150 分)</b> 鳥取県立美術館の建築・学芸・運営担当者からのコンセプト説明 (50 分) のあと、ゲストからそれぞれの活動紹介とクロストーク (100 分) を行います。 [ゲスト] 西澤 徹夫氏 (にしざわ・てつお   建築家) 桐山 登土樹氏 (きりやま・としき   富山県美術館副館長) 大田 佳栄氏 (おおた・よしえ   スパイラルキュレーター)</p>

	<p>【モデレーター】 尾崎信一郎（おさき・しんいちろう   鳥取県教育委員会 美術館整備局美術振興監）</p> <p>協力：JA 鳥取中央</p> <p>後援：鳥取県デザイナー協会、県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会、とっとりプラットフォーム 5 + α</p> <p>※①②共通、鳥取県立美術館の建築・学芸・運営担当者</p> <p>【建築担当】 長谷川 龍友（はせがわ・たつとも   槇総合計画事務所 取締役副所長）</p> <p>【学芸担当】 三浦 努（みうら・つとむ   鳥取県教育委員会 美術館整備局美術館整備課 参事）</p> <p>【運営担当】 赤尾 靖枝（あかお・やすえ   鳥取県立美術館パートナーズ 統括マネージャー）</p> <p>※申込方法など詳細は別添のチラシをご覧ください。</p>
主催	鳥取県教育委員会、鳥取県立美術館パートナーズ
別添資料	・ <input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし 開館 2 年前カウントダウンイベント チラシ

【本件に対するお問合せ先】

鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当：石山

[Mail] [info@tottori-moa.jp](mailto:info@tottori-moa.jp) [Tel] 090-6536-8804

※できるだけメールでのご連絡をお願いします。



【資料】

(1) 会場における留意事項

当日取材をご希望の方は以下の内容をご確認の上、ご参加いただきますよう、ご協力をお願いします。

- 取材をご希望の方は、メール本文または取材申込書に必要事項を記入の上、申込先へメールにてお申込みください。(各社原則 2 名まで)※電話では受け付けておりません。

=====

■ 申込先 : [info@tottori-moa.jp](mailto:info@tottori-moa.jp)

所属会社 :

担当者氏名 :

担当者連絡先 : Tel/Mail

番組・掲載紙名称放送・掲載日時等 :

(2) 登壇者プロフィール

山田 五郎(やまだ・ごろう)

1958 年 東京都生まれ。

上智大学文学部在学中にオーストリア・ザルツブルク大学に 1 年間遊学し西洋美術史を学ぶ。卒業後、(株)講談社に入社『Hot-Dog PRESS』編集長、総合編纂局担当部長等を経てフリーに。現在は時計、西洋美術、街づくりなど、幅広い分野で講演、執筆活動を行っている。

西澤 徹夫 (にしざわ・てつお)

2000 年、東京藝術大学美術学部美術研究科建築専攻修了 2000 年～2005 年 青木淳建築計画事務所 2007 年より西澤徹夫建築事務所 パウル・クレー展(2011 年)、Re:play 展(2015 年)(東京国立近代美術館)、森村泰昌展 (2022 年) (京都市京セラ美術館) 会場デザインや、東京国立近代美術館所蔵品ギャラリーリニューアル (2011 年)、京都市美術館(2019 年)、八戸市美術館 (2021 年) など

桐山 登士樹 (きりやま・としき)

1987 年から 35 年に渡ってデザインの可能性を探り、さまざまな基盤づくりや、横断的な活動を実践。1993 年から富山県のデザイン振興に携わり、行政の枠を越えた活動を実践しデザイン先進県富山を創り上げる。現在、株式会社 TRUNK ディレクター、富山県総合デザインセンター所長、富山県美術館副館長。これまで「ニューヨーク近代美術館巡回現代デザインに見る素材の変容」「イタリアと日本 2001 生活のデザイン展」他

大田 佳栄 (おおた・よしえ)

スパイラルキュレーター、株式会社ワコールアートセンター プロデュース部アートプロデュース課課長。情報誌の編集者を経て、2001 年同社入社。2004 年より館内外のアートプロジェクトを多角的に推進、現代美術を軸にした展覧会・フェスティバルのキュレーション、国際事業推進などを担う。2012 年より国際交流事業「Port Journeys」ディレクター (横浜・象の鼻テラス)。「道後オンセナート 2022」「道後アート 2023」キュレーター。2022-2023、京都府文化力による未来づくり審議会委員。

鳥取県立美術館 開館2年前  
カウントダウンイベント第一弾

2023.

3.5 日

13:30 - 16:30

[13:00 開場・事前申込制]

in 米子 + Zoom

- 参加無料 -

## Program 1

建築 学芸 運営 座談会 (60分)

### 鳥取県立美術館ってどんなところ？

鳥取県立美術館開館準備担当者3名による座談会。  
みなさまから寄せられたご意見やご質問にもお答えします!!

【建築】長谷川 龍友 (はせがわ・たつとも)

横総合計画事務所 取締役副所長  
1970年生まれ。1995年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。  
1995年横総合計画事務所入所。MIT新メディア研究所(アメリカ)、ピハール博物館(インド)、  
海上世界文化芸術中心(中国)などの設計を担当。

【学芸】三浦 努 (みうら・つとむ)

鳥取県教育委員会美術館整備局美術館整備課 参事

【運営】赤尾 靖枝 (あかお・やすえ)

鳥取県立美術館パートナーズ 統括マネージャー

会場 米子市文化ホール イベントホール  
(鳥取県米子市末広町 293 番地)

定員 会場 50人(抽選)、オンライン 200人(先着)

申込 【会場参加】

WEB フォームまたは往復はがき 2/20(月) 必着  
締切後1週間を目安に当落をご連絡します  
(WEB 申込の方はメール、ハガキ申込の方はハガキを発送)

【ハガキ記載事項】

☐参加希望日時 ☐参加希望者全員の氏名(ふりがな)※4人まで  
☐年齢(学年) ☐住所 ☐電話番号  
※参加者の方へ配慮が必要な事項、ゲストへの質問などありましたら  
あわせてご記入ください。

【ハガキ送付先】

〒682-0012  
鳥取県倉吉市清谷 325 ワーキングガレージ SISU 2 F  
鳥取県立美術館パートナーズ イベント担当

▼詳細・申込

【オンライン (Zoom) 参加】

WEB フォームから先着順  
(2/1 より受付開始)



※ご記入いただいた個人情報は、本イベントの運営(受付・抽選・連絡)以外の目的には使用しません。  
ご了承ください

# OPENNESS!

## 未来を“つくる”美術館

### 2025年誕生に向けて

「未来をつくる美術館」を謳って建築が進む鳥取県立美術館。開館2年前という節目に学芸員、建築と運営の責任者が新しい美術館像を語ります。  
合わせて美術に造詣の深い編集者・評論家、山田五郎さんをお迎えして、  
美術館の楽しみ方、印象に残った美術館、そしてこれからの  
美術館が向かうべき方向についてお話をうかがいます。  
この得難い機会に多くの方々の来場をお待ちしています。

【司会】

山下 弥生

やました・やよい  
(FM 鳥取アナウンサー)

## Program 2

スペシャルトークセッション(80分)

### これからの美術館が向かう未来

【ゲスト】 山田 五郎 (やまだ・ごろう | 編集者・評論家)



1958年 東京都生まれ。  
上智大学文学部在学中にオーストリア・ザルツブルク大学に1年間遊学し西洋美術史を学ぶ。卒業後、(株)講談社に入社『Hot-Dog PRESS』編集長、総合編纂局担当部長等を経てフリーに。現在は時計、西洋美術、街づくりなど、幅広い分野で講演、執筆活動が続けている。

著書『知識ゼロからの西洋絵画入門』(幻冬舎)、『知識ゼロからの西洋絵画史入門』(幻冬舎)、  
『ヘンタイ美術館』(ダイヤモンド社)、『知識ゼロからの西洋絵画困った巨匠たち対決』  
(幻冬舎)、『へんな西洋絵画』(講談社)、『知識ゼロからの近代絵画入門』(幻冬舎)、  
『闇の西洋絵画史』(全10巻)(創元社)、『世界一やばい西洋絵画の見方入門』(宝島社)  
TV『出沒! アド街ック天国』(テレビ東京)、『ぶらぶら美術博物館』(BS日テレ)、他レギュラー出演中。

【聞き手】尾崎 信一郎 (おさき・しんいちろう)

鳥取県教育委員会美術館整備局美術振興監  
1962年生まれ。大阪大学文学部大学院西洋美術史学専攻博士課程単位取得退学。1987年より兵庫県立近代美術館学芸員、1995年より国立国際美術館、1998年より京都国立近代美術館にて研究員、主任研究官。2006年より鳥取県立博物館、2021年に館長。2022年より現職。



鳥取県立美術館 (開館準備中) プレサイト | <https://tottori-moa.jp> [主 催] 鳥取県教育委員会、鳥取県立美術館パートナーズ

問合せ | 鳥取県立美術館パートナーズ イベント担当 [event@tottori-moa.jp](mailto:event@tottori-moa.jp) | 鳥取県教育委員会美術館整備局 0858-47-3011

# OPENNESS!

## 未来をつくる

### デザインフォーラム

鳥取県立美術館 開館2年前  
カウントダウンイベント第二弾

2023.

3.21 [火・祝]

in 倉吉 - 参加無料 -

2年後に開館する鳥取県立美術館では昨年、美術館のロゴ・シンボルマークを募集し、1700点余りの応募の中からこのたび最優秀作品を選定いたしました。美術館にとってデザインとは活動の根幹にかかわるテーマです。建築のデザインにはじまり、サイン計画や展示プラン、広報物やカタログのデザイン、さまざまな分野におけるデザインの集大成として美術館とその活動が存在しているといってもよいでしょう。このたび、鳥取県立美術館の開館準備の一環として、ロゴ・シンボルマークの審査結果発表と授賞式に合わせて、建築デザインから美術館のブランディング、コミュニティー・デザインといった幅広い分野の専門家の方を招いて「美術館とデザインとの幸せな関係」をテーマにシンポジウムを開きます。多くの方の来場をお待ちしています。

[司会] 濱井 丈栄 (はまい・ともえ | フリーアウンサー)

#### 第一部 11:00 - 11:40

### ロゴ・シンボルマーク 審査結果発表 & 授賞式

最優秀賞・優秀賞・特別賞の発表  
決定したデザインのコンセプト説明

同時開催 | 応募作品展

期間 | 2023年3月18日(土) PM ~ 3月24日(金)  
会場 | 鳥取県立倉吉未来中心1F アトリウム

応募作品 1726 点のうち、約 1000 点を展示します。  
各賞受賞作品および上記展示作品は、授賞式終了後にプレサ  
イトにも掲載予定です。

**会場** 鳥取県立倉吉未来中心セミナールーム 3  
(鳥取県倉吉市駄経寺町 2 1 2 - 5)

**定員** 各 120 人 (事前申込 60 人、当日参加 60 人)  
当日は各回 30 分前から開場・受付

**申込** WEB フォームまたは 往復はがき 3/6 (月) 必着  
締切後 1 週間を目安に当落をご連絡します  
(WEB 申込の方はメール、ハガキ申込の方はハガキを発送)

#### [ハガキ記載事項]

- ☐ 参加希望者全員の氏名 (ふりがな) ※4 人まで
- ☐ 年齢 (学年) ☐ 住所 ☐ 電話番号
- ☐ 第一部、第二部の参加希望

※参加者の方へ配慮が必要な事項、ゲストへの質問  
などありましたらあわせてご記入ください。

#### [ハガキ送付先]

〒682-0012 鳥取県倉吉市清谷 325  
ワーキングガレージ SISU 2F  
鳥取県立美術館パートナーズ イベント担当

▼詳細・申込



※ご記入いただいた個人情報は、本イベントの運営 (受付・抽選・連絡) 以外の目的には使用しません。  
ご了承ください

#### 第二部 13:00 - 15:30

### スペシャルトーク 美術館とデザインとの幸せな関係

#### ■鳥取県立美術館の紹介 (50 分)

建築計画、学芸部門の取り組み、運営のコンセプトについて担当者がお話しします。

[建築] 長谷川 龍友 (はせがわ・たつとも | 横総合計画事務所 取締役副所長)

[学芸] 三浦 努 (みうら・つとむ | 鳥取県教育委員会美術館整備局美術館整備課 参事)

[運営] 赤尾 靖枝 (あかお・やすえ | 鳥取県立美術館パートナーズ 統括マネージャー)

#### ■ゲストトーク…それぞれの活動紹介・クロストーク・質疑応答 (100 分)

##### [ゲスト]



©Maetani Kai

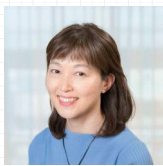
#### 西澤 徹夫 (にしざわ・てつお)

2000 年、東京藝術大学美術学部美術研究科建築専攻修了 2000 年～2005 年 青木淳建築計  
画事務所 2007 年より西澤徹夫建築事務所 パウル・クレー展 (2011 年)、Re:play 展 (2015 年)  
(東京国立近代美術館)、森村泰昌展 (2022 年) (京都市京セラ美術館) 会場デザインや、  
東京国立近代美術館所蔵品ギャラリーリニューアル (2011 年)、京都市美術館 (2019 年)、  
八戸市美術館 (2021 年) など



#### 桐山 登士樹 (きりやま・としき)

1987 年から 35 年に渡ってデザインの可能性を探り、さまざまな基盤づくりや、横断的  
な活動を実践。1993 年から富山県のデザイン振興に携わり、行政の枠を越えた活動  
を実践しデザイン先進県富山を創り上げる。現在、株式会社 TRUNK ディレクター、富山県  
総合デザインセンター所長、富山県美術館副館長。これまで「ニューヨーク近代美術館巡  
回現代デザインに見る素材の変容」「イタリアと日本 2001 生活のデザイン展」他



#### 大田 佳栄 (おおた・よしえ)

スバイラルキュレーター、株式会社ワコールアートセンタープロデュース部アートプロデュース課課長。  
情報誌の編集者を経て、2001 年同社入社。2004 年より館内外のアートプロジェクトを多角的に推進、  
現代美術を軸にした展覧会・フェスティバルのキュレーション、国際事業推進などを担う。2012 年  
より国際交流事業「Port Journeys」ディレクター (横浜・象の鼻テラス)。「道後オンセナート 2022」  
「道後アート 2023」キュレーター。2022-2023、京都府文化力による未来づくり審議会委員。

[モデレーター] 尾崎 信一郎 (おさき・しんいちろう | 鳥取県教育委員会美術館整備局美術振興監)

[協 力] JA 鳥取中央

[後 援] 鳥取県デザイナー協会、県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会、とっとりプラットフォーム 5 + α

鳥取県立美術館 (開館準備中) プレサイト | <https://tottori-moa.jp> [主 催] 鳥取県教育委員会、鳥取県立美術館パートナーズ

問合せ | 鳥取県立美術館パートナーズ イベント担当 [event@tottori-moa.jp](mailto:event@tottori-moa.jp) | 鳥取県教育委員会美術館整備局 0858-47-3011